

精密ナル試験ヲ經サレバ官吏タルヲ得ズ又武官タルモ上士官タルヲ得ズ又輸入税ノ苛重ナルヨリ廣大ナル器械ヲ据エテ十分ニ製絲ノ營業ヲナシ能ハザルノ事情ニ陷シムル者ト同一ニ論ズ可ザル也加之英國ノ印度人民ヲ壓制スル此ノ如ク甚シキヲ以テ印度人民ハ大ニ英國政府ヲ怨恨シ若シ一朝機會ノ乘ズベキアラバ直ニ反旗ヲ翻シテ英國政府ニ抗抵セントスルノ兆候育リ現ニ馬場辰猪ガ英國ニ在リシ印度人ノ話ヲ聞クニ若シ一朝英魯ノ間ニ干戈ヲ興スノ時アラバ印度人民ハ其本國ナル英國ヲ助ケズシテ却テ魯國ニ應接ス可シト云ヘリ故ニ英國政府ガ其本國ト區別シテ印度人ヲシテ代議士ヲ出サシメザルガ如キ且ツ文武官タルノ自由ヲ與ヘザルガ如キ是則チ英國ガ印度ヲ壓制スルノ手段ヨリ出テタル者ニシテ何ゾ自然ノ道理ニ適合セシ者ト謂フヲ得シヤ之ヲ要スルニ加藤君ノ如キハ英國ノ印度ニ對スルノ

政零ハ果シテ如何ナル者カ印度人民ハ爲メニ如何ナル感想ヲ懷キ居ルカ濠太利ト印度トハ如何ナル差異アルカヲ知ラサルニヨリ遂ニ此ノ如キ謬論ヲ爲スニ至リヤナリ此レヲ是レ察セズ徒ラニ臆測妄斷ヲ以テ英國ガ印度ニ對スルノ處置ハ壓制ニ非ラズ抔ト喋々スルハ自ラ世人ノ笑ヲ招ク者ニ非ズノ何ゾヤ
 更ニ其臆測妄斷ノ甚シキ者ヲ舉グレバ曰ク東洋各國トハ大ニ開否文野ノ等差民情風俗ノ殊別アレハ歐洲各國ノ安全幸福ヲ進ムルニ足ルベキ法律權利ハ未ダ以テ東洋人民ノ安全幸福ヲ進ムルニ適セザルナリ故ニ當路者若クハ學士論者至リテハ決シテ此事ヲ輕忽ニ看過ス可ラザルハ勿論ナリ然ルニ彼妄想論者ナル天賦人權者流ハ只管人民ノ權利ノ強大ナルヲ天理ニ合スルモノト認認スルヨリ邦國ノ開否文野及人民情風習ヲ如何ヲ考察セズメ只管人民ノ權利ノ擴張ヲノミ謀ラン

欲ス歐米人民ガ數十百ノ星霜ヲ積ニ漸次ニ得有セル諸權利ヲ舉ク
テ一朝ニシテ之レヲ東洋ニ移サント欲スルハ今日我邦ノ妄想論者ガ
本旨トスル所ナリ云々ト亦粗漏千萬ノ議論ト謂フ可シ我邦現時人民
ノ智識ノ開達長成セシトハ既ニ余カ前ニモ述フルカ如ク決シテ歐洲中
古ノ人民ニ讓ル所有ヲサルナリ顧レハ歐洲各國カ立憲ノ制度ヲ創始
セシヨリ茲ニ數百年ノ久キニ亘レリ現ニ英國ノ約翰王ガ「マヅナカル
ク」ニ調印セシ時ノ如キモ今日ヨリ之ヲ視レバ既ニ六百七十一年ノ以
前ニ在リ其他佛獨蘭等ノ諸國ニ至テハ蓋シ少クモ二百年ヲ下ラサル
ベシ然ラバ則我邦ノ人民ガ歐洲中古ノ人民ノ創始シタル者ヲ今日ニ
創立セント欲スルニ於テ何ノ不可ナル所アラシヤ試ミニ一步ヲ讓リ
我邦現時人民ノ智識ハ未ダ以テ歐洲中古ノ人民ノ智識ニ達セサル者
トスルニ至ラズ自然ノ道理ニ從テ生存競争ノ以テ其權利ヲ伸暢セント欲ス

ルハ所謂進化主義ニ適合スル者ナリ加藤君ノ如キハ大ニ此進化主義
ヲ主張スル者ニシテ却テ之ヲ排斥セント欲スルハ抑モ亦何ノ心ソヤ且
ツ夫レ今日民間ニ在テ有志ト稱セラル、者ハ從來皆立憲政体ヲ創設
セントスルノ輿論ヲ養成セントセシ者ナリ有志者既ニ輿論ヲ養成ソ
興論既ニ國會ノ開説ヲ望ムニ至レリ何ゾ之ヲ目シテ急驟ナリト爲ス
テ得シヤ彼ノ外國ノ法律ヲ直譯シテ直チニ之ヲ我邦ニ實行セント欲
スル者ハ他ニ之レアラシ君自ラ同舟ノ社會ヲ看ラレヨ
更ニ一步ヲ進メ之ヲ論究センニ進化ノ上ニ進化ヲ重ネテ事物ノ便利
ヲ謀ルハ即チ進化主義ニ從フモノナリ夫レ上等動物ノ進化ハ下等動
物ノ進化ニ比スレバ其順序ハ頗ル簡單ニシテ且ツ直接ナリ例ヘバ始
メテ蒸氣車ヲ製造セシ時ニ於テハ種々ノ失策ヲナシ様々ノ困難ヲ經
テ漸ク製造シタル者ナレトモ今日ノ人民ガ之ヲ製造スルニハ敢テ昔日

之ヲ製造セシ時ノ如ク失策ト困難トヲ爲サザルモ十分之ヲ製造シ得
 ベキナリ政体上ヨリ之ヲ論ズルモ亦然リ既ニ開進シタル人民ガ新ニ
 外國ヨリ一種ノ政体ヲ移サント欲スル時ハ始メ外國人ガ其政体ヲ創
 始スル時ニ於テ爲シタル順序ヲ一々襲踏スルヲ要セザル也然ルニ加
 藤君ノ如キハ歐洲ニ於テ立憲政体ハ數十百年ノ星霜ヲ經テ始テ成リ
 シ者ナレバ國會ヲ開キテ立憲政体ヲ創設スルニハ亦同シク之レト同
 様ノ順序ヲ踏マサル可ラズト云フガ如キ議論ヲナスハ何ゾ其進化主
 義ノ真理ヲ知ラサルノ甚キヤ若シ其レ古來ノ經驗ト同一ノ順序ヲ
 踏ムベントセハ我邦ニ國會ヲ開クニ就テハ又英佛ノ如キ慘憺タル
 修羅場ヲ演出セザル可ラサルノ條理ナリ君ハ我カ社會ノ爲メ將タ我
 カ皇室ノ爲メニ此クノ如キ不祥ナル事アルヲ希望スルカ
 加藤君ガ妄想臆斷ノ言語ヲ吐露シテ自カチ己レノ粗忽ヲ示スハ今更

敢テ深ク怪シムニ足ラズト雖モ其ノ附會ノ說ヲ放ツタ世人ヲ瞞着セ
 ントスルガ如キ者有ルニ至テハ決シテ之ヲ放過スベカラザルナリ君
 ガ其第三十二條ニ於テ私權ト公權トノ區別ヲ立テ、曰ク人民ノ私權
 利ニ至リテハ素ト各個人ノ一身上ニ止マルモノナレハ其擴張或ハ少
 シ急激ニ過グルコアルモ其害甚ダ大ナラザルベシト雖モ特ニ參政權
 利ノ如キニ至リテハ其許譽ノ方法纔カニ急激ナルモ忽チ社會ノ盛衰
 興亡ニ關スルコト甚ダ大ナレハ其注意最モ周密鄭重ナラザル可ラズ云
 ヲト夫レ古今法律ヲ説ク者往々私權ト公權トノ區別ヲ立ツルト雖モ
 是レ唯文字ノ上ニ於テ其名ヲ異ニスル者ニシテ實地學術上ヨリ之ヲ推
 論スルキハ殆ト之レガ區別ヲ爲ス能ハザルガ如シ凡ソ人類ノ社會ヲ
 爲スヤ一人一個ヨリ集合シテ始メテ一社會ト成リタルモノ也故ニ學
 術ノ上ヨリ視レバ一人一個ニ關スル彼ノ私權利ナル者モ遂ニ相集合

ノ一體トナルルハ則チ公權ナル者ノ起ルニ非ズヤ然レハ公權ノ本源
ハ則チ私權ニシテ私權ノ合体セシ者ハ則チ公權ナリト謂フ可シ果シ
テ然ラハ人民各自ガ互ニ私權ヲ伸暢シテ法律トナシ以テ之ヲ社會ニ
實行スルニ至レハ則チ公權ノ上ニモ影響ヲ及ボスニ至ルナラン去レ
ハ則チ公權ト云ヒ私權ト云ヒ唯文字上ニ於テ異名ヲ顯ハスノミヨテ
其實決シテ之レガ區別ヲ立ツル能ハザルモノトス然ルニ加藤君ノ如
キハ故ラニ之レガ區別ヲ立テ、私權利ノ擴張ハ急激ニスルモ害ナシ
參政權ハ其許與ノ方法纔ニ急激ナルモ忽チ社會ノ盛衰與亡ニ關スル
杯ト云フハ抑モ如何ナル基礎ニ由テ之ガ區別ヲ爲シタルカ刑法民法
等ニ於テ十分ニ身體ノ權利財産ノ權利ヲ鞏固安全ニセントセハ必ズ
シモ國憲上ニ於テ之ヲ明記セザル可ラズ若シ憲法ニシテ之ヲ明記セ
ザルハ人民ノ私權利ハ全ク其功ヲ失ヒ遂ニ身體財産ノ安全ヲ鞏固

ナラシムル能ハザルナリ然ラハ則チ私權ト公權トハ固ヨリ精密ニ其
區別ヲ立ツル能ハサル者ニシテ私權ノ擴張ヲ可トセハ亦之ト同時ニ公
權ヲ擴張セザル可ラザル者也此レヲ是レ顧ミズ一方ヲ急ニスルモ一
方ヲ緩ニセヨト云フ亦奇怪ナル言語ニ非スヤ
加藤君ハ參政權ノ妄リニ伸暢ス可ラサルヲ説キ遂ニ現今社會ニ普
通選舉ヲ主張スルヲ排斥シタリ其ノ大意ヲ舉グレハ元來議員ハ才
能アル者ヲ要スル者ナレト彼ノ天賦人權主義ノ妄想論者ハ只管公平
ノ道ヲノミ求メント欲シ普通選舉法ヲ立テ以テ一般人民ヲシテ議員
ヲ選舉セシムルノ術ヲ用キント欲スレト是レ才能アル議員ヲ選舉セ
シムルノ道ニ反スルモノナリ云々ト議員選舉法ニ就テハ世間種々ノ
議論アリ然レト進化主義ノ上ヨリ論スレハ決シテ此ノ普通選舉論者
ヲ排斥ス可ラス何トナレハ人類ガ生存競争ヲ以テ自己ノ幸福ヲ求

ムルコトハ正ニ天理上ニ於テ公認スル所ナリ則チ國民多數ノ人々ヲ
シテ自由ニ生存競争シ平和ノ手段ニ據テ優勝劣敗ヲナサシムルハ即
チ普通選舉法ニシテ彼ノ多額ノ財産ヲ以テ制限ヲ立テ國民ノ多數ヲ
シテ之レカ競争ヲナサシメザルカ如キハ決シテ生存競争ナル進化主義
ニ適合シタルモノト云フ可ラサルナリ然ラハ則チ加藤君ノ議論ノ如
キ前第一章第二章ニ於テハ頻リニ生存競争ノ利益ヲ説キナカラ本章ニ
於テハ却テ普通選舉ヲ非難ス何ソ其自家撞着ノ甚キヤ且ツ君ハ國會
議員ハ才能アルヲ要ス才能アル議員ヲ選フコトハ才能アル選舉人ヲ要
ス云々ト頻リニ喋々スレドモ是レ亦實際ヲ知ラサルニ出ツ何トナレハ
世間如何ニ普通選舉ヲ好ム者ト雖モ婦人小兒ノ如キ瘋癲白痴ノ如キ
其他尋常一般ノ感覺ヲキ者ハ之ヲ除クナラシムル既ニ此等ノ徒ヲ除キ通
常一般ノ人ヲ以テ國會議員ヲ選フトモハ縱令普通選舉ヲ許スト雖モ

何ソ深ク其弊害ヲ憂フルニ足ラシヤ況ンヤ國會議員タルモノハ獨リ
智識才能ノミニ非ラズシテ亦方正實直ヲ要スルニ於テチヤ若シ夫レ
國會議員ハ單ニ智識才能ヲノミ之レ要ストモハ國會ハ一二奸雄ノ爲
ノニ不長ヲ逞フスルノ器械トナルモ亦保ツ可ラス故ニ議院ヲ以テ正
直ニシテ且ツ民望アル者ノ淵叢ヲラシムルニハ敢テ故ラニ智識才能
アル選舉人ヲ要セザルナリ之レヲ要スルニ英國ニテ議員選舉ノ財產
制限ニ於テ僅ニ十二磅ニ過ギサル低度ニ爲セシハ蓋シ國會ノ議員ノ
選舉人ハ敢テ非常ノ智識才能ヲ備フル者ヲ要セザルノ爲メナラシ何
トナレハ若シ英國々會ニシテ非常ノ智識ヲ備フル選舉人ヲ要ストモ
ハ猶一層ノ高度ノ制限ヲ置クベキヤ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ
更ニ其第三十四條ヲ視レハ曰ク保守ト漸進トハ社會邦國ヲ興スノ道
ナリ急進ト守舊トハ社會邦國ヲ倒スノ術ナリ我邦今日ノ民權者流ノ

如キ其論スル所其説ヲ所ヲ視ルニ概シテ急進ナノヨリ是レ喜ビ我邦ヲ
シテ未ダ曾テ歐米ニモ見ル能ハサル所ノ理論社會ヲラシメント欲ス
ルモノナリ因テ余ハ此輩ニ社會ノ遺傳變化ノ實理ヲ知ラサル妄想論
者ノ稱ヲ與ヘサルヲ得サルナリ云々ト噫妄斷モ此ニ至ツテ極マレリ
ト謂フ可シ夫レ天下ノ事物ハ必ズ定數アツテ變轉スルモノナリ故ニ
其ノ盛ナルヤ定數アリ其ノ衰フルヤ亦定數アリ治亂盛衰興亡ノ事跡
ニ就テ細カニ之ガ原因ヲ尋ヌレハ必ズ一定ノ自然法規ニ基カサルハ
無ク何ヲ以テ之ヲ云フ曰ク余ガ前ニモ述ブルカ如ク人類ハ皆生活セ
ントスルノ天性ヲ有スルガ故ニ苟モ其生活ニ妨害ナル者ノ出ヅル有
ラハ必ズ之ヲ排除セントスル反對者生ズト同ジク一方ニ於テ非常
ナル守舊黨アリ其勢力ヲ逞ウシテ改進ノ進路ヲ遮斷セント企ツルト有
レハ之レニ反對スル改進ノ黨派ト益々相抵抗シテ其進路ヲ急ニシ或

ニ爲メニ意外ノ變ヲ來タスコト有ルナリ若シ之レニ反シテ一方ニ改進
ノ主義ヲ執ルノ黨派有ルモ一方ニ於テ強ヒテ之ヲ抑制セザレハ其改
進黨派ハ亦從テ徐々ト運行ス可シ之ヲ要スルニ過激ノ民權黨ノ起ル
ハ守舊ノ黨派アツテ之カ進路ヲ妨害スルニ基ク者多シトス夫レ因有
テ而シテ果ヲ生ズ其果ニ就イテ以テ其ノ因ヲ尋ヌレハ今日社會言論ノ
急激ナル者ハ獨リ世ノ民權家ヲ罪ス可カサルガ如シ加藤君ニシテ虚心
平氣以テ内ニ自ラ反省セハ蓋シ思ヒ其半ニ過キン且ツ君ハ最後ニ於
テ英國ニテ共和政治ヲ羨慕スルノ徒モ太子ガ大患ニ罹リシト名刺ヲ
王宮ニ呈シ其ノ快癒ノ一日モ速ナランコトヲ祈ルノ赤心ヲ表シタリ以
テ英國人民ガ愛國ノ心情最モ深厚ニシテ容易ニ過激主義ノ爲メニ動カ
サレサルノミナラス更ニ能ク之ヲ制スルノ力アルカ證スルコト足レリ
我ガ邦ノ過激民權者流須ク猛省スベシト斷言シテ其議論ノ結局ト爲

シタリ以テ君ガ徹頭徹尾誤謬ノ意見ヲ懷キ内外ノ事日ヲ觀察スルノ
識力ナキヲ證スルニ足レリ凡ソ同情相憐ムハ古今人情ノ常ナリ語
曰ク免死ノ狐悲ムト異類猶然リ况ンヤ人間ニ於テナヤ故ニ苟モ同類
ノ疾病憂苦ニ陷ルヲ聞ケハ誰レカ之ガ爲メニ側隱ノ心ヲ起サザル者
アラシヤ殊ニ一國首宰ノ地ニ坐チ占メラル、國王太子ノ疾病危險ニ
罹ラル、時ニ於テ如何ナル主義ヲ執ル者ト雖モ名利ヲ投ジテ快癒ヲ
羅ルハ普通ノ人情ノミ之レヲ以テ英國人民ガ愛國ノ心情ニ厚キヲ證
セシトスルハ豈ニ笑止ノ至リニ非ズヤ今日我が邦人ノ熱心シテ憲法
ヲ設ケ國會ヲ開カシトスルハ即チ上ハ帝室ノ尊榮ヲ全ウシ下ハ人民
ノ幸福ヲ圖リ百年ノ久キ奸雄梟將ヲ毒ヲ社會ニ流サザラシメント
スルノ誠心ニ出ルニ外ナラザル也然レハ萬々一我邦ニ於テ英國太子
ノ事件ノ如クアラハ世ノ民權家ハ皆之レガ爲メニ上天ニ祈禱セント

ハ豈ニ英國共和黨ノ所爲ニ如キニ止マランヤ曩キニ余ノ英京ニ在リ
シ際實地ニ就テ其ノ國ノ有様ヲ觀察スルニ其ノ王家ニ對スル心情ノ
如キハ決シテ我邦今日ノ人民ガ我が帝室ヲ尊崇スルノ比ニ非ザル也
現ニ英國ノ下流ノ新聞紙ガ屢ハ女帝ノ醜行ヲ公布スル一事ヲ以テ之
ヲ知ルニ足ル可シ此クノ如キ人民ヲ引用ノ却テ忠厚ナル我邦人民ヲ
規諭セントスルハ抑モ亦何等ノ囁語ヲヤ抑モ我邦人民ハ今日ニ在テ
實ニ 帝室ヲ尊崇スルノ心情ニ厚キ英國人民ト同日ニシテ語ル可キ
ニ非ラズ然レモ若シ政府ニシテ加藤君ノ如キ無稽ノ說ヲ信用シ強ヒ
テ人力ヲ以テ人類自然ノ競争ヲ妨害セハ此忠厚ナル人民中ニ於テ如
何ナル心情ヲ懷ク者ヲ生出ス可キヤ未ダ知ル可クサルナリ君須ラシ
自ラ猛省スル所有レ

斯ニ如ク論シ來レハ加藤君ノ人權新說ノ謬點ハ昭々トシテ明カナル

ト云然レモ余ハ猶世人ノ注意ヲ惹カンガ爲メ茲ニ余カ議論ノ重ナル
 要點ヲ列序シ且ツ君カ議論ノ重ナル謬源ヲ指示スヘシ
 第一 進化主義ニ從ヘハ妄想モ確説ノ基礎トナル者ニシテ必スシモ
 有害ニ非サルコト
 第二 天賦人權主義ヲ唱道シタル鼻祖ハ紀元後ノウルクヒヤン氏ニ非
 ラズシテ紀元前ノセノ氏ノ説ニ基ク
 第三 性法學派ノ起原ハ西曆千五六年比ノ哥路志氏哈比氏等ニ非ラ
 ザレテ紀元二百二十八年頃ニ於テ既ニ羅馬ニ起リシコト
 第四 佛國ノ革命ハ人類自然ノ競争ヲ抑壓セシヨリ起リシコト
 第五 優勝劣敗申ニ良正ノ者ト不良正ノ者トヲ區別スル能ハサルコト
 第六 生存競争ハ邦國ノ種類ト時代ノ異同トヲ以テ可トセハ我邦今
 日人民ノ生存競争ヲ以テ不可トス可カサルコト

第七 我邦現時人民ノ智識ハ概シテ歐洲中古ノ人民ノ智識ニ比較ス
 ルモ將テ我カ今日ノ官吏ニ比較スルモ敢テ劣ル所有ラサルコト
 第八 天賦人權主義ハ宇宙ノ萬物ト共ニ不消不滅ノ自然力ヨリ生シ
 シルコト
 第九 加藤君ノ引証シタルイーリソング氏ノ説ニ據レハ我邦人民ハ益
 ヲ進メテ其權利ヲ伸暢ス可キモノナルコト
 第十 加藤君ノ第二章ノ意ハ生存競争ニテ其ノ權利ヲ伸暢ス可キコ
 第三章ニ至テハ却テ之ヲ抑制セシメテ前後撞着スルコト
 以上ハ余カ議論ノ重ナル要點ヲ舉ケシ者ナリ而シテ加藤君カ議論ノ
 謬妄ヲ指摘スレハ一ニシテ是テスト雖モ其重要ナル謬原ヲ舉クレハ
 左ノ如シ
 第一 學者カ議論ヲ爲スニ方リ最モ探究スヘキ原因ヲ極メズシテ輕

忽ニ議論ヲ起セシム
 第二 歐羅巴諸國ノ實際ノ有様ヲ知ラサル
 第三 我邦今日ノ實際ノ有様ヲ知ラサル
 第四 天賦人權主義ハ必ズ進化主義ニ反對セルモノト思惟セシム
 右ノ條款ニ就イテ此ノ演説ノ要領ヲ示シ加藤君ヲシテ自ラ信ズル所
 ノ怪癖ナルヲ省悟セシムルニ足ルベキト信ズルナリ抑モ加藤君ハ一
 個人ノ書生ニモ非ズ遁世ノ仙客ニモ非ズ又尋常齷齪ノ俗吏ニモ非ズ世
 人モ認メテ幾分カ時勢ニ通ジヨル學者ト爲ス所ヨシテ現ニ天皇陛
 下ノ特選ヲ以テ大學總理ノ重職ニ居レリ然ルニ自ラ意見テ天下ニ公
 布スルニ及ヒ考證ヲ失ヒ事實ヲ誤リ其論ズル所ハ一トシテ荒唐附會
 ナラサル無シ而シテ世ノ起ツテ之ヲ駁撃スル者モ亦擇ンテ精シカラズ
 語ツテ審ラカナラサルノ憾ミナキ能ハズ是レ余ガ論壇ニ立ツテ一言

37

スルノ己ム可ラサル所以ナリ聞ク君ハ嚮キニ眞政大意國體新論ヲ著
 ハン之ヲ世ニ公布セシガ何故カ後進ヲ誤ルコトアリトテ之ヲ絶版シ
 代ツテ世ニ出セシ者ハ此ノ人權新説ナリ然レトモ其眞正ニ後進ヲ誤
 マルハ其ノ前ノ者ニ多キカ其ノ後ナル者ニ多キカ君ヨシテ自ラ良心
 ノ發動スルニ過ハ、再ヒ此書ヲ絶版シテ過チテ天下ニ謝スルハ遠キ
 ニ非サル可シ余ハ刮目シテ之レヲ待ツ

續加藤弘之君人權新説大尾

明治十五年十二月十三日出版御届
明治十六年一月 出版

編輯兼
出版人

東京府
中

京橋

發
兌

内田

日本橋

賣

山中市兵衛
内田彌兵衛
稻田佐兵衛
丸善書店
金湊堂
小笠原書店

巖山
秩木
法水
靜霞
萬字
報告

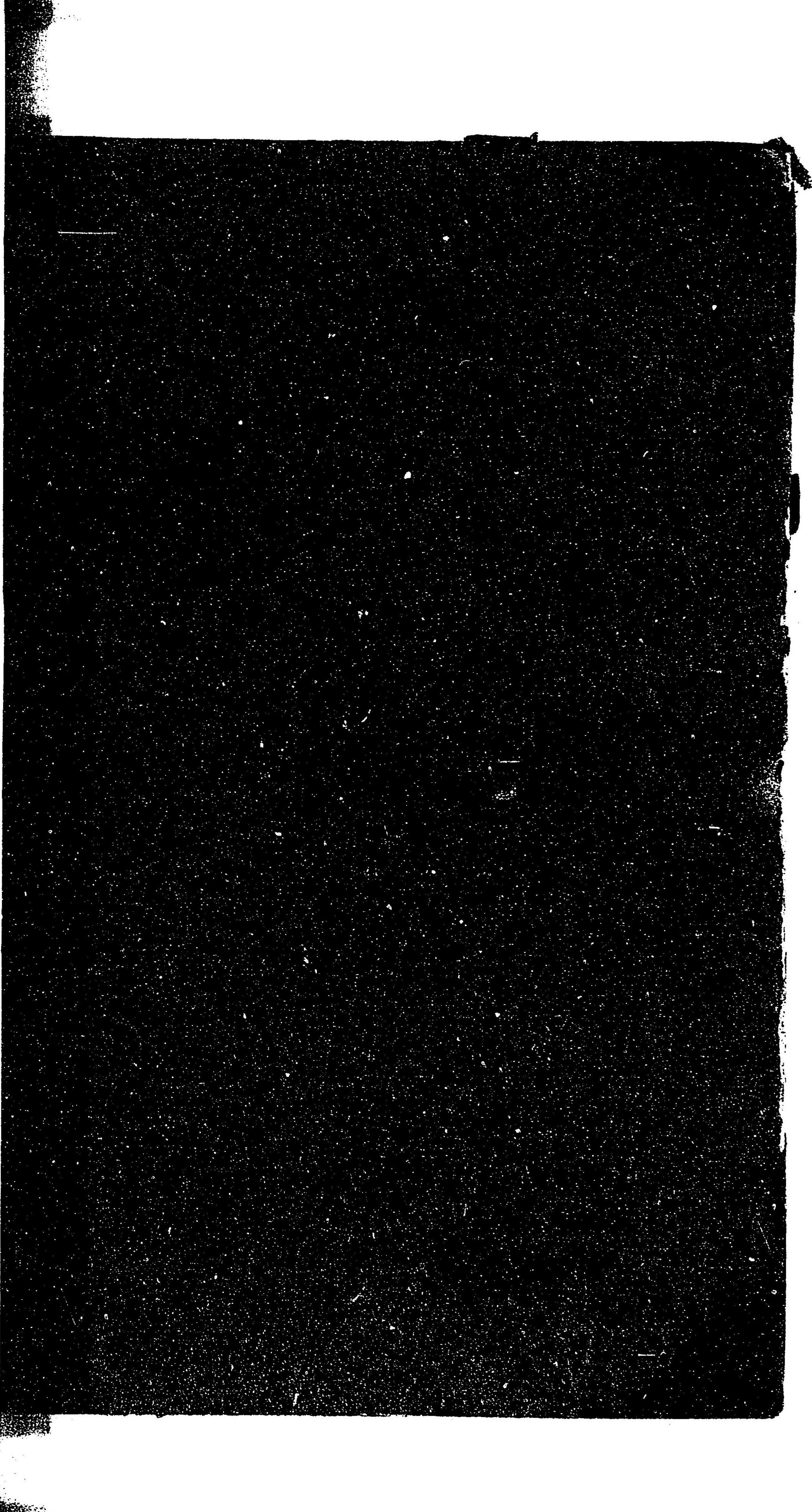
所

私

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 辻 | 一 | 牧 | 土 | 栗 | 牧 | 柳 | 小 | 東 | 水 | 内 | 出 | 山 | 石 | 小 | 北 |
| 岡 | | 野 | 屋 | 田 | 野 | 川 | 林 | 生 | 野 | 藤 | 日 | 川 | 林 | 鳥 | |
| 交 | | 貫 | 吉 | 忠 | 信 | 善 | 梅 | 喜 | 熊 | 泰 | 雲 | 藤 | 治 | 藤 | 茂 |
| 助 | | 堂 | 衛 | 衛 | 郎 | 衛 | 郎 | 右 | 次 | 慶 | 二 | 兵 | 兵 | 兵 | 兵 |
| | | | | | | | 門 | 郎 | 藏 | 郎 | 寺 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 |

西大
京坂

| |
|-----|
| 32 |
| 274 |



039625-000-3

32-274

人權新說駁論集

加藤 弘之/著

M16.1

BDA-0203



